

特集 1. 子どもは空間を求めているのか

最終回 家づくりとゆとりのミスマッチ**

平成 21 年 7 月 25 日

□ 時間と心の余裕

子どもが延長保育実施園[†]に通う家庭を対象とした調査¹⁾によると、親の仕事により子どもの帰宅時間が遅くなる家庭では、そうでない家庭に比べ「いらいらし子どもにあたってしまう」比率が大きくなっていることが分かったのです(表 1)。

表 1 家事・育児で一番困っていること¹⁾

| | 全体 | | 18:30までに帰宅 | | 18:31以降に帰宅 | | 回答例 |
|-------------------|-----|-----------------|------------|-----------------|------------|-----------------|--|
| | 事例数 | 回答有り(326)に対する比率 | 事例数 | 回答有り(200)に対する比率 | 事例数 | 回答有り(126)に対する比率 | |
| いらいらし子どもにあたってしまう | 20 | 6.13 | 11 | 5.5 | 9 | 7.14 | ・よく手が出てしまう。特に自分の気持ちがいらいらしている時などは声も大きくなりがち ・子どもに対して、忙しい時こねられるとヒステリックに怒ってしまっている。少し自分に余裕がないように思う |
| 時間に追われている | 32 | 9.82 | 17 | 8.5 | 15 | 11.9 | ・帰ってから寝るまでの時間がとても短く、ゆとりふれあう時間がない ・時間がないのであまり甘えさせてあげていない |
| 子どもの寝る時間が遅くなる | 19 | 5.83 | 11 | 5.5 | 8 | 6.35 | ・9時には寝かせようと思うのに、家事やお風呂に手間取ったり、うまく眠ってくれなかったりして遅くなると焦る ・夕食を帰宅してから作っているため、どうしても夜寝るのが遅くなってしまふ |
| きちんとした食事をつくる時間がない | 14 | 4.29 | 6 | 3.0 | 8 | 6.35 | ・夕食をつくる時間があまりないので、外食・外注も多い。手間をかけた食べ物を作れない ・夕食が市販のお惣菜が多くなり、栄養のバランスや愛情不足が気になります |
| 家の中が片づかない | 10 | 3.07 | 5 | 2.5 | 5 | 3.97 | ・疲れていると片づけ等がなかなかできず、家がすぐ散らかる。掃除が行き届かない ・子どもがぜんそくで、ほこりやダニアレルギーがあるが、毎日忙しくて掃除することが出来ないのが気になる |
| 夫が育児に協力してくれない | 21 | 6.44 | 17 | 8.5 | 4 | 3.17 | ・夫が自分のペース・生活スタイルを守り抜き家庭に参加しない為、負担が全部私にかかる ・旦那は2時から就寝までは自分の時間。私だって仕事をもち帰っているし保育園役員の仕事もあるし、不公平感からよくケンカになる |
| 子どもが病気のとき困る | 24 | 7.36 | 15 | 7.5 | 9 | 7.14 | ・子どもが発病した時など、預かってくれるところがない。仕事を休めば生活に困る。預ける場所があっても費用が高く生活に困る。 ・母の都合で、少し調子が悪そうでも強引に出勤してしまうのが辛い |

このことは、時間の余裕やゆとりの無さは、親子のコミュニケーションの「量」だけでなく、「質」にまで悪影響を及ぼすことを示しているのです。

□ 不安定なアタッチメント

前回示したとおり、親子の相互交渉、ふれあいが質・量ともに十分で、しっかりとした親子の絆(愛着、アタッチメント)が築けた場合、子どもは**自分は愛されるに値する**、他者も信頼に値するという観念を得ていくのです。そして、その後もこの信頼をもとに対人関係を安定的に行っていく

** 初めて記事をご覧になる方は、必ず「[利用規約](#)」をご確認ください。

† 文字とおり、延長保育を実施する保育所。

とされているのです。

一方、親子の相互交渉が質・量ともに不安定だった場合、子どもは、他者は信頼に値しない、自分も愛されるに値しないという観念を抱いてしまうのです。そして、その後もこうした不信、不安をもとに、対人関係が回避的、不安定になってしまうことがあるのです。

こうして考えると、幼少期に親子が質・量ともに豊かなふれあいを保つことが、子どもの成長にとって非常に重要な意味をもつことが分かるのです。

□ 人・空間・時間

これに対し、雑誌などでは「親子のふれあいを意識したプラン」が紹介されることがよくあります。しかし、実際は、親子や家族の豊かなふれあいは、空間的側面だけで説明することはできません。なぜならコミュニケーションには、「時間」や「人」という要素も大きく関わるからです。

ですから、団らんの「場所」があったとしても、たとえば、家族の生活時間がずれ違っていれば、同じ「時間」、同じ場所で笑い合うことなどできないのです。

また、前述のいらいらして子どもにあたる親のように、心や時間にゆとりを無くした「人」は、いくら家族同士であっても、楽しいふれあいや会話を行うことが少し難しくなるのです。

□ 出産と同時はハイリスク

前回「子どもが生まれた」ことを機に住宅購入を検討する際は、慎重を期すべきとした理由は、実はここにあるのです。客観的にみて、このタイミングで住宅を購入することは、非常にリスクが高い行為なのです[†]。なぜなら、家計収支に関わる項目（以下参考）の多くが不透明のままだからです。

- 1. さらに子どもが増えるかもしれない、子どもの数が未確定
- 2. 養育費を含めた家計収支が把握しきれていない
- 3. 育児によって、収入が制限されてしまう可能性がある…etc

[†] 小学校の入学時期までは、住宅購入を控えた方が賢明だとする意見が多い。その頃には、子どもを含めた家計収支、進路や将来設計に見通しが立ち始めるため。

□ ゆとりが無くなる

ですから、たとえば、いざ配偶者が産休をとったり、退職などしてしまうと、途端に家計が厳しくなってしまうことがあるのです。

そして、こうした家計収支のアンバランスによって、期せずして、育児の時間と引き換えに、労働時間を増やすことになったらどうでしょうか。時間や気持ちに、ゆとりを失ってしまう人も少なくないのではないのでしょうか。

□ 空間ではなく愛を

「**幼年時代の楽しさは生涯の財産だし、幼年時代の悲しみは生涯の負債**」²⁾

今まさに、このタイミングで住宅購入を検討している人、または「今が買い時」と思い詰めている人は、この言葉を胸に、家族のふれあい、子どもの成長のことを「人・空間・時間」の視点で捉え直してほしいのです。

ローンのこと、広さのこと。本当に切実なことです。しかし、子どもは空間でなく、親との絆、温かいふれあいを望んでいるのです。このことを軽視してしまうと、家づくりの当初の理想（ハウス）と、実際の家族像（ライフ）とがかけ離れた、いわばハウス・ライフバランスの崩れた家ができてしまうのです。

* 記事の感想をお聞かせください

[アンケート画面へ](#)

参考文献

- (1) 小伊藤亜希子, 岩崎くみ子, 塚田由佳里. 帰宅時間の遅延化が子どもの家庭生活に及ぼす影響 : 延長保育実施園に通う子どもの調査より. 日本家政学会誌, Vol. 56, No. 11, 783-790, 2005.
- (2) 加藤諦三. [アメリカインディアンの教え](#). ニッポン放送出版, 1994.
- (3) 繁多進. [愛着の発達-母と子の心の結びつき-](#). 大日本図書, 1987.

【寄付歓迎】当コラムは無料ですが、ご寄付は歓迎します。詳しくは[ご支援依頼](#)をご覧ください。